

「教職ボランティア入門」とは…

3年次の「教育実習」の前に、2年次で実施される「教職ボランティア入門」は、公立小学校において、授業や生活指導（給食・清掃等）の手伝いをして、「学校で働く」体験をすることです。学校ボランティアを通じて、子どもや学校に慣れると共に教師として働く喜びを感じ、教師志向を高めることをねらいとしています。

●6月～2月 週一回（火曜日） ●近隣校や母校等で



国語分野 高瀬 陽香

子どもたちは、興味関心が様々な方面にあり、感じたことを積極的に伝えてくれると分かりました。そんな子どもたちに寄り添い、楽しい学校生活を送ることができるようサポートできる教員になりたいという、明確な目標ができました。

数学分野 草島 拓朗

私が小学生の頃とは大きく異なる環境で、まだ慣れないことも多いです。しかし、子どもたちとの交流を通して時代の変化に順応していることを体感することができています。この経験を少しでも将来に活かせるよう励んでいこうと思います。



目次

同窓会会長と共同教育学部長からのメッセージ…	2	●	大学生生活奮闘中……………	8
同窓会から学生への支援……………	3	●	宇都宮大学共同教育学部同窓会について…	9
懐かしい学生の頃……………	4	●	定期総会の概況……………	10・11
現場からの声……………	5	●	編集後記……………	12
今に生きる……………	6・7	●		

同窓会会長と共同教育学部長からのメッセージ



同窓会に感謝

宇都宮大学共同教育学部同窓会前会長
増 淵 茂 泰

皆様のご支援のもと、5年間なんとか会長職を務めることが出来ました。同窓会には何かとご縁がありまして、小学校の時に12月に転校し卒業をしていない小学校の同級会のメンバーに加えて頂いたり、3か月しか在籍しなかった同級会に参加したりして、70代を迎え、また、中学校では母校に勤務して30年分の名簿作りを任せられ、学年の事務局員を今も継続をして来年は80歳。3～4年毎に実施していましたが、コロナ禍で中断した同窓会を開催する予定です。高校は今年を最終回にという案がありましたが、来年も実施することになりました。大学では学生時代、軽音楽研究会初代会長として「ニューマトリー JAZZオーケストラ」を結成し、滑空部、軟式テニス部に所属し、夏は水泳部に混ぜてもらい、多くの友を得ました。そして今日まで、同窓会役員として多くの友を得ました。こんなに幸せなことはありません。同窓会に感謝です。ありがとうございました。



憧れ、それは仲間とともに

宇都宮大学共同教育学部同窓会会長
橋 本 和 英

中1理科の授業中、担任であり理科担当の先生が北極星を中心とした星の日周運動の写真を見せてくれました。撮影の疑問と教員への憧れが顔を出しました。

高校では、友人、先輩、そして流れ星に出会い、星の写真撮影疑問解決とともに仲間への意識が膨らみ出しました。やっと進学できた我が母校、新たな友人、先輩、理科教室の仲間とともに学生生活を謳歌しました。もちろん先生方も含めてです。

今ここにいるのは何のためかと立ち止まることも何度かありましたが、憧れから始まった担任と理科への想いは、教員の道へと繋いでくれました。その後も仲間がいて、ともに歩み続けることができました。

最後になりますが、皆様のご協力をお願い致します。

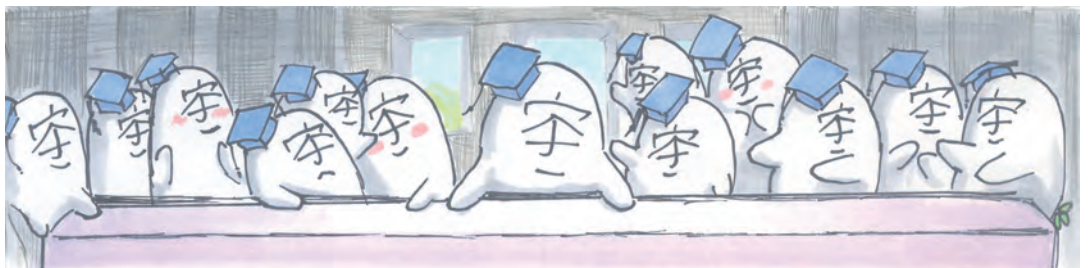


ご挨拶

宇都宮大学共同教育学部学部長
加 藤 謙 一

日頃より共同教育学部へのご支援・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。昨年度は、コロナ禍における学生支援として、保存可能な食料や学食の食券等を7月と10月の2回に分けてご提供いただきました。改めて深く感謝申し上げます。共同教育学部が発足し、4年目を迎え、ほぼ全ての履修科目が揃いました。全国初の取り組みであり、業務の遂行は試行錯誤の連続でしたが、滞りなく授業時間割に沿って実施することができました。また、初めて群大生との対面による教職特別演習Ⅰ（2年生）・Ⅱ（3年生）を実施することもできました。この授業を通して、学生からは、「今まで画面越しでしか会ったことのなかった群馬大学の学生たちと実際に対面で関わることができ、ようやく共同教育学部らしいことができたなと感じたとともに、宇都宮大学という枠を越えて知り得ることができた知識や技能などもあり、とても有意義な活動であった」など、好意的な意見が多数寄せられました。今後は、さらに共同教育学部としてのメリットを活かし、高度な教員養成教育を展開していく所存です。

毎年、同窓会から教員採用試験対策として、論作文・個人面接・集団討論・模擬授業などのご指導をいただいております。心より感謝申し上げます。令和4年度の教員採用試験合格率は68.7%（昨年度：61.8%）で増加しましたが、臨任教員を含めた教員就職率は59.4%（昨年度：64.8%）で減少しました。このことは、現在の教員を取り巻く環境や社会的評価が影響し、教員志向を鈍らせていると思われれます。しかし、教師は子どもたちの人生に影響を与え、成長を実感できるという、他では得がたい経験のできる職業でもあります。教師の魅力を伝え、一人でも多くの学生が教員になれるよう、私たちは全力で支援します。今後とも同窓会の皆様には変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



「宇～太の晩餐」 美術分野2年 久留生 桃花

同窓会から学生への支援

共同教育学部の学生の就職に役立てるよう、
同窓会員が支援



どうする教採！ 支える同窓会

教職セミナー指導員

渡邊 昌子

3年間の就職支援室指導員を経て、年2回の教員採用試験対策セミナーや試験間近な学生の論作文添削指導を一对一の対面で行っています。最初は分かりやすく表現することが苦手な学生も、文章構成や個性ある具体例を褒めたり、改善を指摘したりすると、素直に受けとり、向上心に溢れ成長する姿があります。現場での活躍が期待でき、頼もしい限りです。

時には論作文以外の就職への不安・悩みの相談もあります。話を聞きながら、現場での失敗談や経験を紹介し、折れない心で前を向く自身との向き合い方をアドバイスしています。周囲と比べない自分だけの良さを見つけ、子どもたちとの「打てば響く」反応の喜びや共に成就した時の達成感を実感して欲しいです。

「未来の自分が最良の判断ができる」ように、学生が今できることを支え、応援しています。



夢のお手伝い

就職支援室指導員

朝倉 真美

今年度から、就職支援室で教員を目指す学生の支援をしています。進路等の相談や論作文の添削、個人面接や集団討論の練習、願書チェックや過去問題集の貸し出し等が支援の主な内容です。

今の時期は論作文の添削指導が主ですが、特に学生との対話を大切に考えています。学生と一緒にテーマに沿った取組をいろいろ考える作業は楽しく、学生の豊かで新鮮な発想には感心させられることが多々あります。また、会話を通して学生の不安や緊張を感じることもあり、少しでも不安を和らげ、温かな支援ができるよう心がけています。

支援室を訪れる学生たちの目は真剣で、よい教師になりたいとの思いを強く感じます。学生皆さんが思いを遂げ、理想の教員となって活躍できるために、少しでも役に立てるよう支援していきたいと思います。



先生方の多くのご支援

教科教育コース 英語分野卒

小林 真由

私は今年度から小学校の教員として働いています。元気な子どもたちと充実した日々を過ごしています。私の教師になるという夢を叶えることができたのは、就職支援室の先生方のご支援があったからです。

大学4年生になってすぐ就職支援室を利用させていただきました。特にお世話になったのが、毎週の論作文添削です。何をどのように書いたらよいのかを丁寧に教えていただきました。そのおかげで、採用試験本番も自信を持って論作文に取り組むことができました。また、心理的な面でも大変お世話になりました。試験に対する不安な気持ちを相談できたのは有り難かったです。

就職支援室の先生方は非常に親切な方たちばかりで、的確な指導をしてくださいます。教員を目指している方はぜひ就職支援室を訪れてみてください。皆さんの夢が実現することを願っています。



先生方との思いで

教科教育コース 数学分野卒

登城 直紀

中学校教員となって、3か月が経ちました。毎日が充実しており、支援室の先生方から聞いていた以上に忙しい日々を送っています。

私は大学3年後期から就職支援室を利用させていただきました。支援室の先生は、何を勉強すべきかわからなかった私に、まずはこれがいいよ、と論作文の過去問をくださったり、合格した先輩の話を聞く機会を設けてくださったりしました。4年生になってからは、論作文の添削指導を受けたり参考書を借りたりするために毎日のように支援室に足を運びました。試験当日が近づくに連れ、焦りが出始めましたが、支援室の先生は温かく話を聞いてくださったりわからないところと一緒に考えてくださったりしました。2次試験前には同窓会の先生方から論作文や面接指導をいただき、試験当日も落ち着いて臨むことができました。

懐かしい学生の頃

大学を卒業した皆様の当時の思い出



かけがえのない思い出

宇都宮支部 樽井 圭子

大学時代を振り返ると、何と言ってもフランス式庭園や日本式庭園など緑豊かな環境の中で、授業やサークル活動など色々な学部や学科の人たちと楽しい時間を過ごしたことが思い出されます。

そのような中でも、3・4年生で実施される教育実習で初めて小・中学生の前に立ち、授業をする緊張感や指導案ができなくて睡眠不足になった日々も思い起こされ、先輩や友達からのアドバイスや励ましのありがたさ、そして同じ夢に向けて共に頑張ることの喜びや達成感も忘れられない思い出です。

大学時代は、友達と楽しく語り合い自分の好きなことに自由に取り組める時間と社会人として教員生活を送るためのステップを踏む時間が交錯しているときでした。そしてそれは、自分の土台になっている時間であり、かけがえのない思い出です。



学生時代の思い出

都賀支部 菊地 由美子

私は管弦楽団に所属し、授業が終わると毎日、フランス式庭園西の蔵作りの部屋に通い練習しました。初心者で入った私はヴィオラを担当しましたが、1年生で初出場したドボルザークの新世界はうまく弾けず、ボーイングを合わせるので精一杯でした。

しかし、アルト記号の楽譜にも慣れ、徐々にヴィオラの魅力に取り憑かれました。4年生でベートーヴェンの交響曲第九番をヴィクターフェルドブリルさんの指揮で混声合唱団と共に演奏したことは一生の思い出です。ブルックナーのロマンチックも忘れられません。

練習を終え、毎晩10時10分の終電で帰りました。駅には必ず母が迎えに来ており、自転車の後ろから車のライトを照らしてくれました。今更ながら感謝しています。その後、教師として音楽に携わりましたが、私の原点は宇大オケであったと懐かしく思い出しました。



コロナ禍だからこそ経験できたこと

芳賀支部 石川 茉菜

大学を卒業して、3か月が過ぎました。私の学生時代は、コロナ禍により、思い描いていた学生生活を送ることができないことがありました。しかし、コロナ禍だからこそ経験できたこともたくさんありました。

例えば、リモート授業による、グループ協議です。普段関わる人が少ない人と話すことができ、自分の考えを深めたり、新たな交友関係を作ったりすることができました。

現在私は、小学校の教員として働いています。多忙ながらも、充実した毎日を過ごしています。これも学生時代仲間と勉強したり、遊んだり、悩みを相談したり、たくさんのことを経験してきたからです。

宇都宮大学での4年間は、私にとってとても貴重な時間でした。この経験を大切に、今後の教員生活に活かしていきたいと思います。



仲間たちとともに

小山支部 佐山 幸代

大学を卒業し、教職について31年となります。

私は、小学校教員課程国語専修でしたが、今、思い返しますと、大学に入学した時には、将来について、明確に「教師になる」という目標がなかったと思います。

教育全般について、さらには、国語科の教員としての理論や指導法について、その道の専門の先生方から多くを学ぶことで、次第に「小学校の教師になりたい」という思いを膨らませていきました。

そこには、いつも、同じ志をもつ仲間がいました。講義の内容を話したり、時には、授業もそこそこに遊びにいったり…。そして、そうした仲間との関係は、職業として「教師」となった今も続いております。卒業してもなお、大学の同窓としてのつながりが、ありがたい。そんな仲間との絆を、今の宇都宮大学の学生の皆さんにも築いてほしいと思います。

現場からの声

教職に就いて活躍している人の
メッセージ



AIに負けない、愛情を次世代へ

南河内支部 王 晨健

教職に就いて3年目を迎えた。講師時代を合わせて、4校も経験することができ、それぞれの学校ではっきりと感じていたのは、先生方の子どもたちへの深い愛情と強い使命感であった。

AIが流行っている今の時代では、教員の仕事はもうお終いではないか！と心配する声をよく耳にしている。現場を経験してから、「授業配信の動画を見せれば良いではないか」と訴える人たちに、現場の先生方の姿を見せつけてやりたいと強く思い始めた。令和型の日本学校教育に向けて、先生たちが、生徒一人一人に応じて、愛情を注ぎ、様々なアプローチを考案して、試行錯誤していることは、現段階の人工知能が超えられないものだと感じている。むしろ、AIのディープラーニングは教育現場のプロセスを模倣して作られたものだと確信している。

私は、愛情深く、生徒たちの可能性を引き出せるような教師たちが格好良いと感じ、AIに負けないような教員になるために現場で奮闘していきたいと思っている。



つながる、つながる

那須北支部 倉井陽之

大好きだったF棟を飛び出して、かれこれ7年になる。いつの間にか授業にも慣れ、いつの間にか部活動にも慣れた。学生時代にぼんやり思い描いていた「学校の先生」像に、着実に近づいてきた。

転んだ回数を数えればきりが無いが、そんな中でも心折れずに教員を続けられているのは、先輩先生たちの温かい御指導があったからだと思う。あんな風に、子どもたちにはもちろん、後輩の先生たちにも接することができるようになりたい。先輩たちへの憧れが、今、この瞬間の私の原動力になっている。

縁あって今年も教育実習生を担当した。未来ある若者に教職の楽しさと奥深さを伝えねばと意気込んで臨むが、終わってみると勉強になったのは私の方だな、と気づかされる。毎度もれなくである。

全部つながっているのだと思う。頑張りたい。



魅力ある仕事

栃木支部 松本息吹

小さな頃からの夢である小学校の先生になりました。

この2か月で、小学校の先生として、多くの魅力を感じることができました。

1つは授業作りです。授業は、準備がとても大切です。発問の仕方や授業の展開など、考えることがたくさんあります。その分、自分が考えた授業で、児童が「分かった。」という反応をしてくれた時は、とても嬉しくなります。自分の工夫がすぐに成果に現れることに魅力を感じています。

また、児童とのふれあいにも魅力を感じています。児童と日々、ふれあうことで、児童が新しくできるようになったことを見ることができます。このような成長を見ることで、教師としての達成感を得られることが魅力です。

魅力あふれる仕事ができ、とても嬉しく思います。



授業を通して

南那須支部 三島真由美

英語専科教員となり5年、児童にコミュニケーションを図る楽しさを感じさせたいと日々実践を積んでいる。

授業では、児童の好みや普段の出来事等についてよく話をするが、児童のゲーム中心の話題に寂しさを覚えることがある。様々な質問に対する答えのほとんどが「ゲーム」。もちろんみんなが大好きなものなので教室は盛り上がる。しかし時に、ゲーム以外の答えが出ると、何だかほっとする自分もいる。ゲームは簡単にコミュニケーションを図る材料になる。しかし、ゲーム以外の話題からも楽しさを感じさせたい。

英語の授業を通して私ができることは、ゲーム以外の友達の話を楽しそうに広めることで、「おもしろそう」と少し児童に違う興味をもたせることだと思う。そういう小さな積み重ねでだんだんと児童の世界を広げていきたい。

今に



ばあばも頑張る！

宇都宮支部

上澤 久子
昭和53年度卒

ちょうど退職の年、あこがれの「ばあば」になることができました。現職中は仕事に明け暮れ、自分の子どもと遊ぶ時間すらなく、申し訳なさだけが残っていたのです。さあ、娘の分も孫の遊びに付き合い、成長を見届けるぞー！ と。とことん遊ぼう（遊べる）と思っていました。

3～4才の頃は良かったのです。動きについていけましたから…。今は、小学2年生になりました。遺伝なのか、興味をもったことは、とことんやらないと気が済まない男の子です。ドッジボールの練習は、6年生を当てるくらいまでに、将棋は藤井竜王のように打ちたい、そして今は、大谷翔平のように二刀流の野球がしたい等、とてもとても遊びに追いつかなくなっています。

孫の成長は本当に速いです。反面、私はどうだろうとへこんでしまうことも。でも、「孫に負けてはいられない！」私は今、大学時代の親友と共に「おかあさんコーラス全国大会」に向けて燃えています。

いつまでも生き生きと、孫も自分も、成長を感じる時間を過ごしていきたいと思います。



日々勉強

野木支部

森 和良
昭和62年度卒

平成元年に小学校教員として採用され、令和5年3月末をもって34年間の教員生活を終わらせました。

34年間の教員生活のうちの20年間、特別支援教育に関わってきました。初任校でお世話になった先輩から誘いを受けてたことがきっかけでした。教師という仕事は子どもたちに物事を教え、きちんとした大人にさせることが仕事だと思って一生懸命になっていました。しかし、特別支援教育に携わるようになり、その考えが徐々に変化していきました。それは、子どもに教えるのではなく目の前にいる子どもたちから教わるのが重要なのだということです。特別支援教育は大変だという話をよく耳にします。でも、子どもの成長を信じ、その成長にどう関わればよいかを常に考えな

がら子どもたちと一緒に学習していると、日々新しい発見があり、少しずつ、でも確実に成長していく子どもたちの姿が見られることに大きな喜びを感じることができました。

退職して3か月を過ぎた今、高齢となり体も思うように動かなくなってきた義理の両親に教えを請いながら、農業という新たな目標に向かって準備をしている毎日です。



恩返し

壬生支部

北見 修
昭和47年度卒

宇都宮大学を卒業して50年を経過した。その間、大学で学んだことを生かし、37年間小学校教員として勤務することができた。家族の支えも大きかった。

退職後、14年間、町や地域と関わりを持って現在に至っている。自分のお世話になった町や地域に、自分のできることを精一杯努力し、恩返しや感謝の気持ちを伝えていくようにしていきたい。

趣味として、最初は妻に美味しい蕎麦を食べさせたい気持ちで始めた蕎麦打ちも、5年も経過すると、腕も少しずつ上達してきた。今や、知り合いの方が「おいしい。また、食べたい。」と次の蕎麦打ちを楽しみに待っているの、うれしい悲鳴でもある。

自分の体力は、年とともに衰えてきて、膝、腰をはじめ、身体のあちこちが痛み出すようになってきた。妻や親、家族や先輩の方々に支えてもらった自分である。そういう方々への感謝や恩返しの気持ちを忘れずに、身体の痛みに負けず、日々自分のできることに努力していきたい。

せっかく上達した蕎麦打ちも心を込めて蕎麦打ちを行い、数多く食べてもらえるように励んでいきたい。



「2XXX年」 美術分野2年 湯沢 天朗

生きる

退職し、第二の人生を歩む人の今



65歳からの生き方で、ひと工夫…

塩谷支部 五味 俊夫
昭和55年度卒

「明日からは、のんびり好きなことができる！」

65歳になり、3月末で完退後5年間、勤務していたスクールカウンセラーの仕事で退任しました。

これからはゆっくり自由な生活ができるのが喜んだのもつかの間、勇んで始まった4月第1週が何とも居心地悪く、私にはストレス・フルな1週間でした。

これまで40年以上、1時間刻みで仕事をしてきた私にとって、このような無計画でぐうたらな生活は逆にストレスがたまるばかりでした。

2週間目に「何とかしなければ！」と思い立ち、週ごとにやることの予定表を作ることにしました。

そして考えた3週目の「週予定表」は、月・火曜日は妻との外出や家の仕事。水・木曜日は軽キャンパー（キャンピングカー）での活動。金曜日はゴルフ。土・日曜日は別宅での畑や山仕事でした。

このような「週予定表」を立てることで、次の日何をするのか、どこに行くのかななどを色々考え、先の見える（前向きな）生活ができるようになっていきます。

時間も気にせずに、のんびり自由な生活ができる方もいるかと思いますが、私にはそれはどうも性に合わないようです。今後も週ごとに予定や計画、目標を持って生きていこうと思います。

なお、いつまでできるか分かりませんが、要望があれば検査キットを備えた軽キャンパーを活用し、今まで関わったお子さんや保護者たち、先生方への相談にも応じていこうと考えています。



自分探し

南那須支部 高堀 陽子
昭和59年度卒

この春の叙勲で、金崎芙美子先生が、瑞宝中綬章を受章されました。心よりお祝い申し上げます。

先生の講義は今でこそ当たり前の「男女共同参画社会」の先駆けでした。結婚後、女性が「家内」や「奥様」と呼ばれることに疑問を投げかけ、「家外」や「表様」という呼び名を提案されたり、旦那様を当時から「主

人」ではなく「パートナー」と呼ばれたりしていました。40年前のこと、その講義は、私にとってとても新鮮で、衝撃的でした。その後、教員として共働きをし、子育てする中で、その教えは常に根底にあり、38年の教員人生を無事終えることができました。

今年、非常勤講師として初任者のお手伝いをしています。ブラック企業と言われている教員の世界、確かに多忙ではありますが、子どもの成長やクラスの団結などが実感できた時の「やりがい」を少しでも多く経験できるよう支援していきます。

私的には、コロナ禍で思うようにできなかった、愛犬との旅行や友人とのカフェ巡りなども楽しみたいです。偉大なる大先輩、金崎先生の言葉「命尽きるまで走り続ける！」を胸に、これからの自分探しをしていきたいと考えています。

自然と映像とともに

那須北支部 渡部 吉晴
昭和55年度卒

教職を定年退職後、大田原市の「自然観察館」に学習指導員として勤務しています。ひと月に15日ほどの勤務で今年度で6年目となりました。本館は周囲を森に囲まれ自然豊かな環境にあり、昆虫類をはじめとする小さな生き物たちの博物館です。今年度も年間企画についてスタッフ（皆教職経験者）と協議し、標本や生体の展示、並びに自然観察会など各種講座の開催を行っています。

私は学生当時「映画研究会」に所属し、8ミリ映画制作などに熱中しましたが、教職についてからも映像を中心とした教材づくり・授業での活用の研究に取り組みました。現在も本館の展示について、ITを活用した映像を取り入れ充実した展示をめざしています。

今年は近くに生息する「フクロウ」の飛翔映像の撮影に成功し、視聴展示することができました。また、栃木県野鳥の会の皆さんとの共催の探鳥会では、毎回多くの鳥たちの飛翔やさえずりを観察することができ、私にとっても貴重な体験となっています。参加される皆さんの熱心な姿にも刺激を受けています。

今後も多様な体験をより価値ある「経験」とできるよう愉しんでいきたいと思っています。

大学生生活奮闘中

共同教育学部の今
がんばっている人の言葉



「共同教育学部」と格闘中

教育人間科学系教育分野 教授

丸山 剛史

共同教育学部は1年生から4年生までが揃い、完成年度を迎えた。本学部は小学校と中学校全教科の教員免許状を取得可能とすることを重要な特徴としている（特別支援教育分野の学生は特別支援学校5領域の免許状を取得可能）。在学生の中にはこの条件をフル活用し、中学校の複数教科の免許状を取得する者もいる。他大学ではこうはいかない。地方国立大学教育学系学部の中には中学校教科の免許状が十分に取得できない大学も現れているからである。

しかし、その実施・運営は容易ではない。履修表作成、時間割作成、授業実施…。すべてが初めての試みである。特に遠隔授業システム(写真参照)を利用して、群馬大学の教室をネットワークで接続して行う授業では資料提示、学生同士の意見交流など、前例のない試行が続けられてきた。大学教員も学習会を行い、よりよい講義等のあり方を模索してきた。こうした試みには両大学の教員・職員・学生の協力が欠かせない。スタッフ、カリキュラム、施設設備は大学の財産である。今このことを痛感している。

ところで、私の場合、私に出来ることを考え、日本学術振興会科学研究費交付を受けるたびに、日本教育史・教科教育史関係の図書を附属図書館に少しずつ備え付けてきた。都道府県教育史(『〇〇県教育史』、『〇〇県教育百年史』等)のコレクションは本学以上に所蔵している大学図書館はないと言っても過言ではない。過日も本学にしか所蔵されていない図書を閲覧するために遠方から訪ねて来た方がいた。

共同教育学部と格闘しながら、宇都宮大学共同教育学部が特徴ある大学・学部として存在感を示し、学生さんにも誇りに思ってもらえるよう努めている。引き続き、ご指導のほど宜しくお願い致します。



理想の教師を目指して

特別支援教育分野専攻

五十嵐 健人

教師になりたいと漠然と考え教育学部を選び入学しました。しかし、何を教えたいのか、どんな先生になりたいのかということは入学当初は全く考えてもいませんでした。自分の進む道を決めるきっかけとなったのが3年次の特別支援学校の教育実習でした。子どもたちは明るく素直で一つひとつの活動に前向きに取り組み、先生たちは子どもを支えながら一緒になって笑ったり喜んだりしている様子がとても印象的でした。3週間の実習を通して、支援の方法を考えたり実践したりすることの難しさを感じたと同時に、一人ひとりと向き合い子どもと一緒に活動することの楽しさや、子どもができなかったことができるようになったときの喜びも感じました。子どもたちに寄り添いながら一人ひとりに適切な支援ができる教師を目指し、今後も大学での学びに励んでいきたいと思います。



大学生生活奮闘中

美術分野専攻

中村 彰吾

共同教育分野美術の中村です。美術分野では油絵、水彩の人物画、七宝、金属加工、漆絵、絞り染め、ロゴデザイン、ポスター制作、CDジャケットのデザインなどさまざまなジャンルの実技ができます。とても忙しい反面、実技に没頭できることが美術科最大の魅力だと思います。また、美術科は工芸室や油絵室など、美術科しか使わない部屋があり、暇なときにゆっくり過ごせるのも良い点です。実技面だけでなく、美術史や美術理論なども充実しており、歴史的、文化的視点から知識を拡充していきます。

教育分野なので小学校、中学校の美術教育の課題や問題点、評価などについても学びます。3年生からは絵画、工芸、デザイン、美術史でそれぞれのゼミに分かれて、それぞれ自分のやりたい制作に向けて取り組んでいくことになります。自分は絵画ゼミですが、自分の作りたい作品を1つ制作し、提出するといったものになります。自分はゼミでアニメーションを制作しています。ゼミはかなり自由なので自分のやりたいことをやることができます。皆さんもぜひ美術科の制作に参加してみませんか？

宇都宮大学共同教育学部同窓会について

宇都宮大学共同教育学部同窓会は、栃木師範・女子師範・青年師範・宇都宮大学教育学部（学芸学部）が、幾多の変遷を経ながら一体となって、昭和43年に「宇都宮大学教育学部同窓会」として誕生しました。令和2年度には、共同教育学部と学部名が新たになり、令和3年度から、共同教育学部同窓会としました。令和5年度で、147年という輝かしい歴史と伝統をもつ団体です。その間、同窓会は児童・生徒の教育に情熱を傾け、本県教育の中心的な存在として活躍してきました。また、教育以外の分野でも、各方面で活躍されています。

同窓会では、ねらいを「母校の発展に寄与するとともに、会員相互の親睦と資質の向上を図る」としています。

活動内容は下記の通りです。

母校である宇都宮大学への協力・学生支援

- コロナ禍における学生支援事業（令和4年度 2回実施）
- 宇都宮大学基金への協力

- 新入生歓迎会の協力
- 入学・卒業時に、学生への記念品贈呈
- 就職対策セミナーへの支援・資金協力
- 就職支援室への協力
- 災害時における対応（見舞金）
- 施設の新設・改修への協力
 - ・学生のサークル活動施設（コスモス）の新設（H17年度）
 - ・宇都宮大学まなびの森保育園の新設（H18年度）
 - ・宇都宮大学旧講堂の改修（H19～22年度）
 - ・教育学部音楽棟の改修（H25～27年度）

同窓会員の親睦

- 総会（県・各支部）・懇親会の開催
- 役員会・理事会等の会議の開催
- 現職会員と終身会員との話し合い・交流
- 会報（年1回）の配付
- 会員の慶弔に関する事業

就職支援

共同教育学部の学生が、資質豊かな教員になるため、以下のような支援をしています。

1. 就職セミナー

教員採用試験対策春期セミナー（論作文個別指導／4年生対象）

教員採用試験対策夏期セミナー（個人面接・集団討論／4年生対象）

教員採用試験対策秋期セミナー（論作文個別指導／3年生対象）

- 集団討論・面接担当者：瓦井千尋・大野 薫・高梨敏朗
- 論作文担当者（論作文の添削も含む）：綱川芳孝・柏崎純一・石川宗子
渡邊昌子・小貫敬子・戸部義則・大沢智恵子

2. 就職支援室

就職に関する全般の指導を常時行っています。（月～金／10：20～16：20）

- 就職支援室指導員：中村ひろみ・朝倉真美

●令和5年度に終身会員（退職者）になられた方

- 【宇都宮支部】 小野浩司・岡田直毅・柿本和彦・高島俊幸・高島利佳子・高橋正子・樽井圭子・戸部義則(R4)・平本幸己・松本和士
- 【芳賀支部】 大塚昌哉・賀川倫夫・河俣久美子・町井典子
- 【佐野支部】 渋谷隆夫・長竹克裕・松島繁夫
- 【足利支部】 齋藤浩史
- 【塩谷支部】 沼尾昇
- 【那須北支部】 磯 隆幸・小泉秀夫
- 【南那須支部】 近藤 正・田崎充洋・高堀陽子



就職セミナー支援風景



「宇～太と愉快的な森の仲間たち」 美術分野2年 松沼 瑞歩

叙勲受章者への賀詞贈呈 おめでとうございます

◎春の叙勲	栗田治江 様 (塩谷)				
◎高齢者叙勲	石塚二郎 様 (宇都宮)	篠崎壽朗 様 (宇都宮)	靄見徹也 様 (宇都宮)	君島 實 様 (日光)	
	軽部 亨 様 (芳賀)	小関捷夫 様 (芳賀)	生井孝雄 様 (芳賀)	谷田部栄一 様 (芳賀)	
	武田 勲 様 (芳賀)	佐藤 弘 様 (芳賀)	浅香 裕 様 (芳賀)	上野光司 様 (芳賀)	
	秋山禎一 様 (芳賀)	奥田好三 様 (芳賀)	小林康雄 様 (小山)	山中 正 様 (小山)	
	大出 孟 様 (小山)	飯塚廣司 様 (栃木)	刑部信也 様 (足利)	星野光行 様 (足利)	
	荒井守雄 様 (塩谷)	阿久津友男 様 (塩谷)	石塚貞男 様 (塩谷)	蛭田亀吉 様 (塩谷)	
	手塚壽彦 様 (塩谷)	加藤 哲 様 (塩谷)	長谷川巻夫 様 (塩谷)	熊田 剛 様 (那須北)	
	高橋榮一 様 (那須北)	石川正男 様 (那須北)	笠井久美 様 (那須北)	白石久夫 様 (那須北)	
	青柳 學 様 (那須北)	笹沼瀧男 様 (那須北)	小山田行雄 様 (那須北)	矢板賢栄 様 (那須北)	
	高田 博 様 (南那須)	星 健彦 様 (南那須)	星 尚 様 (南那須)	大金 正 様 (南那須)	

退任者への感謝状贈呈 お世話になりました

増淵茂泰 様 (会長・宇都宮支部長)	土屋周平 様 (副会長・石橋支部長)	小野浩司 様 (副会長)
新村雅司 様 (副会長)	小堀真穂 様 (上三川支部長)	船田美里 様 (西方支部長)
松本頼夫 様 (都賀支部長)	塩田理紗 様 (国分寺支部長)	小川三枝子 様 (藤岡支部長)
梶木佳子 様 (岩舟支部長)	森下 尚 様 (小山支部長)	近藤 正 様 (南那須支部長)
	鈴木文香 様 (南河内支部長)	
	根岸裕美 様 (野木支部長)	
	森加奈夫 様 (栃木支部長)	

令和5年度同窓会役員・支部長名簿

【役員】

- 客 員：池田 宰・加藤謙一
- 顧 問：柴田 毅・松本展壽・増淵茂泰
- 会 長：橋本和英
- 副会長：大豆生田将・稲垣和希・五味淵俊夫
高梨敏朗・間宮栄二・堀田由美子
大越浩子・新村幸江・高橋重年
- 監 事：市岡正嗣・渡邊昌子
- 事務局：大沢智恵子・高尾亮子

【支部長】

宇都宮 橋本和英	上三川 上岡尚子
南河内 椎名 剛	西 方 奥山雄宏
日 光 浅川邦彦	芳 賀 片岡康夫
都 賀 菊地由美子	壬 生 北見 修
石 橋 稲垣和希	国分寺 加藤美鈴
大 平 亀田浩史	野 木 服部三晴
藤 岡 神宮司賢一郎	岩 舟 市場久美子
小 山 白石成世	栃 木 岩出 岳
佐 野 立川公重	足 利 神林孝文
塩 谷 五味淵俊夫	那須北 豊田 充
南那須 田島弘行	



学長挨拶



退任者(増淵会長)への感謝状贈呈



大学歌斉唱



橋本和英 新会長

コロナ禍・物価高における学生支援 (第2回目)

7月2日(日)の定期総会時に承認された「コロナ禍・物価高における学生支援事業」が下記のとおり行われました。

日時：令和5年7月26日(水) 12:00~16:00

場所：8号棟C棟1階 北側入口

対象：共同教育学部生の希望者(同窓会員でなくてもOKです。)

内容：生活支援として『食品・日用品・学生協食券』をまとめて一袋にして配付(今回は150袋限定、先着順)・じゃがいも(寄付)を希望者に配布

会長をはじめ役員の皆さんが学生の皆さんに「教員採用試験がんばってね」「教員になってね」等応援の言葉をかけながら品物を手渡していました。そのアンケート結果を紹介します。

- 突然のことでしたが、とても心の支えになりました。多大なるご支援ありがとうございます。
- 豪華なプレゼントをありがとうございました。助かります。採用試験も応援してくださって嬉しかったです。
- 一人暮らしで節約しているので、すごくありがたいです。素敵な教員になれるように頑張ります!!

※今回の事業について、下野新聞7月27日(木)付3面「談話室」に掲載されました。



卒業生の日本画家 故松本哲男氏と洋画家 故臼井永雄氏の絵画展示

昨年、日本画家 故松本氏の絵画5点と洋画家 故臼井氏の絵画12点を、お二人のご親族の方から、本学に寄贈いただきました。寄贈いただきました絵画は、UUプラザ・峰キャンパス4号館入口・陽東キャンパス図書館・セキスイハイムさくら寮などに展示されています。ぜひご覧になってください。

(UUプラザの絵画鑑賞の際は、事前にUUプラザまで電話連絡をお願いします。TEL 028-649-8172)

故松本哲男氏 絵画「レ・ポー」四面屏風



レ・ポーとは、フランス南西部アルピュー山脈の中にある小さな村

故臼井永雄氏 絵画 「茶色いテーブルの静物」



パリで開催された臼井氏の個展の様子を写したスナップ写真には、氏と本作が収められている

画家のご紹介

お二人は、宇都宮大学で美術を専攻し、卒業後は一旦高等学校や中学校教師として教職についたという共通点があります。臼井氏がフランスへ旅立つ際は、松本氏が荷造りを手伝われたとの逸話も残されています。

松本哲男氏

- 1968年 宇都宮大学教育学部美術科卒業
- 1968年～1979年 栃木県立那須高等学校及び今市高等学校勤務
- 1990年～2002年 宇都宮文星短期大学 文星芸術大学勤務
- 1993年～2011年 東北芸術工科大学勤務
- 1994年 栃木県文化功労者
- 第78回院展内閣総理大臣賞をはじめ各種コンクールで様々な賞を受賞。
- 2012年 死去(69歳)

臼井永雄氏

- 1961年 宇都宮大学学芸学部美術科卒業
- 1961年～1967年 矢板市立片岡中学校勤務
- 1967年 渡仏
- パリ国立美術大学に2年間学び、およそ50年間フランスで絵画を描き続けた。1980年ニューヨーク国際美術展招待出品をし、フランス代表として銀賞を受賞するなど各種コンクールで入選。
- 2019年 死去(86歳)

編集後記

新型コロナウイルス感染症が、5類に移行したことで、学内にも活気が戻ってきたようです。昨年度は、小宮学部長から加藤学部長へ、今年度は、増淵同窓会長から橋本同窓会長へ、引き継ぎがなされました。増淵同窓会長の意志を引き継ぎ、「母校の発展に寄与、会員皆様との親睦・資質の向上」を目指し、編集委員一同、微力ながらも努力していききたいと思います。

会報131号は、教育実習の前に、教師になるという気持ちを高めるための新しい取り組みとして実施されている「教職ボランティア入門」について特集致しました。多くの学生が、教員となり活躍していけるよう会員の皆様と共に応援してまいります。

会員の皆様をはじめ、大学の先生方、学生の皆様、大変お忙しい中にもかかわらず原稿等をご寄稿いただきましたことに感謝申し上げます。

【編集委員】大越浩子・小林純子・徳永幸子・大沢智恵子・高尾亮子